

<別紙> 情報提供様式

①事例名	
副校長・教頭マネジメント支援事業（非常勤講師の配置）	
②学校名	
高島高等学校	連絡先(電話番号) 0740-22-2002
③取組分野	
<input checked="" type="checkbox"/> 副校長・教頭の負担軽減に関する取組（副校長・教頭マネジメント支援事業(非常勤講師の配置)の活用等）	
④直面していた課題(取組前の様子)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教頭や教職員の時間外在校等時間が月平均 50 時間を超える状況が続いており、慢性的な多忙感が学校全体に広がっていた。</li> <li>・校務運営や各種調整業務について、役割分担や業務内容の整理・共有が十分でなかったため、判断や対応が教頭に集中しやすく、業務負担に偏りが生じていた。</li> <li>・ICT の活用は教職員個人の力量や経験に委ねられており、校務全体の効率化や負担軽減につながる形での組織的な活用には至っていなかった。</li> </ul>	
⑤在校等時間の縮減に向けた具体的な取組内容	⑥参考となる写真や資料を添付
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教頭の業務内容を整理・可視化し、校務全体の役割分担について教職員で協議することで、特定の役職や個人に業務が集中しない体制へと見直した。</li> <li>・校外からのメールについて、確認・振り分けを担当する教員を明確にし、校務全体を把握している教員が振り分けを行うことで、迅速かつ的確な対応を可能とした。</li> <li>・生成 AI を含む ICT について、校務や授業で活用できる場面を共有しながら導入を進め、校務処理の効率化につなげた。</li> <li>・復命の様式を電子化・規格化し、記載内容を整理することで、教員の作業時間短縮と教頭の円滑な処理を可能とした。</li> </ul> <p><u>取組のポイント</u>          教頭の業務内容を整理・共有することで、校務の見える化が進み、業務が特定の役職や個人に集中しにくくなった。          働き方改革を個人の工夫に委ねるのではなく、学校全体の課題として捉え、チームで相談しながら改善を進めた。          校務分担の見直しを通して、教職員が校務運営や管理職の役割を身近に捉える機会となった。</p>	
⑦取組の成果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教頭および教職員の時間外在校等時間が削減された。 R6→R7 にかけて、月平均で教頭 6.35 時間、教職員 8.05 時間の削減が見られた。</li> <li>・ICT 活用が進み、会議や連絡、採点、出欠管理等の校務において事務作業の効率化が図られた。</li> <li>・校務分担に対する意識が高まり、教頭に業務が集中しないよう教職員が協力し合う雰囲気が生まれた。</li> <li>・校務運営に関わる中で、管理職の役割に対する教職員の理解が深まった。</li> </ul> <p><u>成果のポイント</u>          ・校務を分担して担う経験を通して、教職員が学校運営を自分事として捉える意識を高める契機となった。          ・管理職の仕事を手近に感じることで、将来を見据えた意識づくりにつながった。</p>	